

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

2018年12月3日 発行

■ 本号の内容

- 発電所の業務をご紹介します
- 非常時に使用する電源設備を点検しています
- 発電所構内の空間線量
- 燃料の保管と冷却状況
- 災害ゼロを目指して安全総決起集会を開催しました
- 発電所データBOX



川内村総合グラウンド付近の紅葉（撮影場所:川内村上川内字町分 撮影日:11月3日）

当所では、地域の復興に向けて楢葉町・富岡町・川内村のお祭りやイベントの会場設営・駐車場整理、地域の除草・清掃活動などを自治体の皆さまと連携して実施しています。

広報部 地域広報グループは、これらの活動における発電所の窓口として関係箇所との調整や対応者のとりまとめ等を行っています。



「BONDANCE」（川内村）の会場設営（8月14日）



「とみおか復興ロードレース大会」のコース誘導（9月30日）



「秋のクリーンアップ作戦」（楢葉町）に参加（10月7日）



「みんなでやっぺ！！きれいな6国ごみ拾い」に参加（10月27日）

地域広報グループの増田さんに話を聞きました。

お世話になった地域の皆さまに恩返しをしたい

－地域での活動で大切にしていることは

地域の皆さまのニーズに沿って、安全に作業することです。作業中の災害は、どんな状況でも皆さまにご迷惑をおかけすることになってしまうため、細心の注意を払っています。また、活動を通じて皆さまと会話することも楽しみにしています。

－福島への思いを聞かせてください

マリーゼ選手としてプレーしていた頃、苦しい時に支えていただいたのが地域の皆さまでした。

震災と福島第一の事故により、地域の皆さまの生活を奪ってしまいました。

お世話になった皆さまに少しでも恩返しができるよう、地域の復興に向けて取り組んでいきます。



広報部 地域広報グループ
復興推進チームリーダー

増田 亜矢子

（元東京電力女子サッカー部マリーゼゴールキーパー）

健康のため、できるだけ週1回はフィットネスで汗を流すようにしています。

非常時に使用する電源設備を点検しています

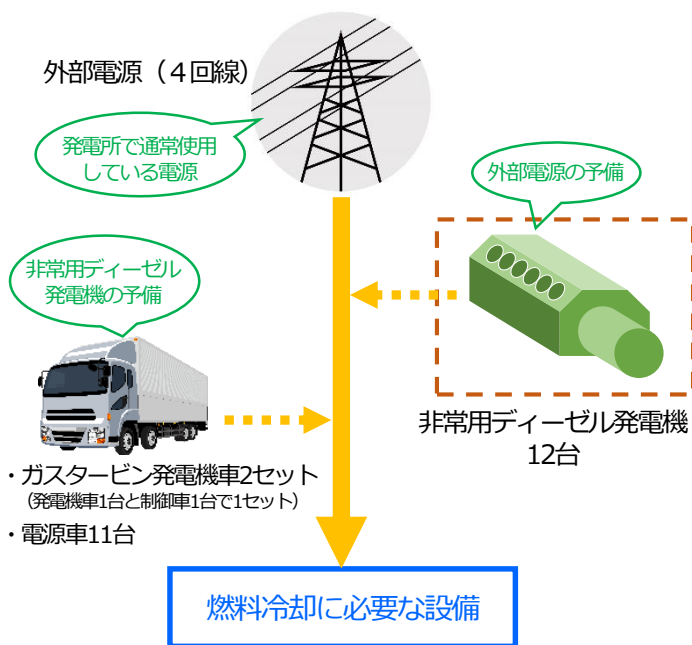
当所では、燃料冷却のために通常使用している発電所外部からの電源（外部電源）が非常時に止まってしまった場合に備えて、非常用ディーゼル発電機を設置しています。

この発電機は、外部電源が停止すると自動的に起動し、燃料冷却に必要な設備へ電気を供給します。

発電機1台でも安定した冷却に必要な電気を発電できますが、設備の多重化を図って原子炉1基毎に3台ずつ設置しており、点検はこの3台が同時に使えなくなることがないように計画的に行っています。

また、当社原子力事故を踏まえ、非常用ディーゼル発電機に加えて新たに予備電源としてガスタービン発電機車（2セット）や電源車（11台）を配備し、燃料冷却のための電源強化を図っています。

○ 当所の電源構成について



点検中のディーゼル機関（シリンダ部分）の組立

発電所構内の空間線量

（単位はマイクロシーベルト毎時）

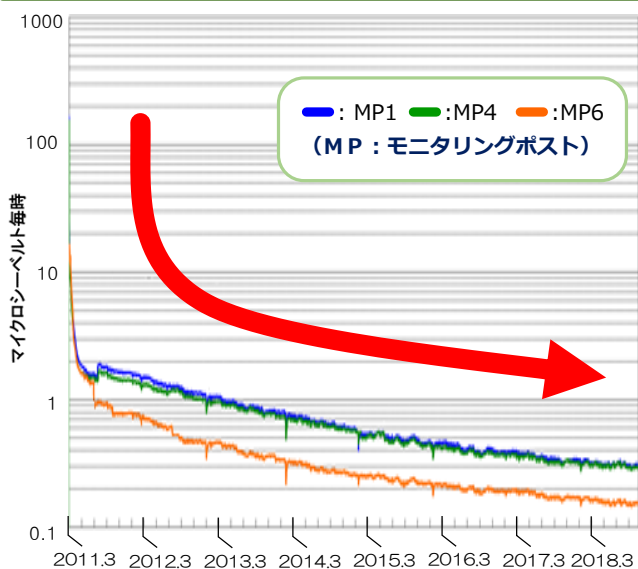
発電所構内のモニタリングポスト計測値（MP1～7）

2018年11月27日 時点

0.09 [MP7] ～ 0.31 [MP3]

値は震災後、現在に至るまで低下傾向

震災から現在まで（2011年3月16日～2018年10月31日）



参考データ（単位はマイクロシーベルト毎時）

発電所周辺町村の空間線量

富岡町（帰還困難区域含む）	0.07 ～ 2.00	楢葉町	0.04 ～ 0.24
広野町	0.06 ～ 0.18	川内村	0.05 ～ 0.31

原子力規制委員会 放射線モニタリング情報より（2018年11月27日 時点）

世界の主要都市の空間線量

ロサンゼルス（アメリカ）	0.10	ソウル（韓国）	0.12
上海（中国）	0.59	ロッテルダム（オランダ）	0.33

出典：福島県放射能測定マップより

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水は約30℃で安定的に冷却し、常に監視しています。

2,534体	2,482体	2,544体	2,516体
1号機	2号機	3号機	4号機

災害ゼロを目指して安全総決起集会を開催しました

10月17日、当所所員と協力企業の皆さまが一体となり、作業安全・交通安全に対する意識を高めて『災害ゼロ』を達成することを目的に、当所構内にて安全総決起集会を開催しました。集会では、安全への思いを一つに参加者（33社、約260名）全員によるシュプレヒコールやスローガンの唱和などを実施しました。地域の皆さまにご心配をおかけすることのないように、**発電所で働く一人ひとりが人身安全・設備のトラブル防止**に努めてまいります。



参加者全員によるシュプレヒコール



安全について呼びかける所長



代表者による安全宣言



思いを一つにスローガンの唱和

<安全宣言> 一部抜粋

- 一、私達は、所長方針である「基本動作、基本ルール」の遵守、自分の身を自分で守る」を基本とし、安全確保に努めます。
- 一、私達は、日頃のTBM-KY（危険予知）による危険要因の排除を行い、リスク低減に努め安全対策を実施し、作業者全員に周知し、災害を発生させない様に努めます。
- 一、私達は、3wayコミュニケーション（伝達・復唱・確認）を実施し、お互いのコミュニケーションを図り、ヒューマンエラーの防止に努めます。

発電所データBOX

福島第二原子力発電所で働く人は2,330人※です。(2018年10月1日現在)
※1日あたりの入構者数は約1,000~1,100人

	東京電力HD	協力企業	合計
県内	389人	1,598人	1,987人 (85%)
県外	57人	286人	343人 (15%)
合計	446人	1,884人	2,330人 (100%)

編集後記

先日、日ごろの運動不足解消を兼ねて「ならば町秋空散策あるこう会2018」に参加しました。

すがすがしい秋空の下、浜通りの深まりゆく秋を肌で感じながら8kmのコースを約2時間かけて歩きました。途中の木戸川では、タイミングよく伝統の「合わせ網漁」によるサケ漁を見ることができました。

また、サケの紅葉汁、マミーすいとん、カレーライスを振舞っていただき、食欲の秋も満喫できました。【吉】



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は燃料の安定冷却を継続してまいります。



福島第二原子力発電所の
ホームページもご覧ください。

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

編集発行責任者：

東京電力ホールディングス株式会社
福島第二原子力発電所 広報部 企画広報グループマネージャー
〒979-0695 福島県双葉郡楢葉町大字波倉字小浜作12
Tel 0240-25-1353 (受付時間(平日)午前9時～午後5時)
fuku2kouhou@tepco.co.jp (受信専用)